

奨励金No.1560

研究者資料アーカイブズの目録標準化に向けた記述フォーマットの構築：物理学者資料を中心に

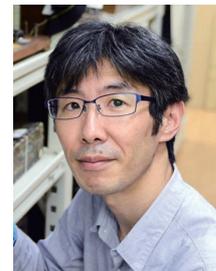
有賀 暢迪

一橋大学大学院 言語社会研究科 准教授

Development of a Standard Description Format for Cataloging Archival Materials of Researchers: Focusing on Physicists' Materials

Nobumichi Ariga,

Graduate School of Language and Society, Hitotsubashi University, Associate Professor



科学技術の歴史研究にとって重要な一次資料である研究者資料（研究者個人に由来する資料）は、各地の文書館・図書館・博物館や研究所内の「史料室」「記念室」などで保管されている。本研究では、この種の資料の所在と概要の情報を集約するため、個々の資料（「アイテム」）でなく資料群（「フォンド」）に照準を合わせ、アーカイブズの国際標準となっている目録規則に即して、研究者資料を概括的に記述する標準的フォーマットを構築した。

Archival materials of researchers are significant primary sources for studies in the history of science and technology, and they are preserved in archives, libraries, museums, and the like in research institutions. In this study, we created a standard format for describing general information such as locations and contents of those archival materials. The focus of the format is to describe groups of materials (“fonds”) rather than individual materials (“items”) in accordance with the international standard of archival description.

1. 研究内容

1.1 背景と目的

科学技術の人文・社会科学研究、とりわけ歴史研究にとって重要な一次資料の一つが、研究者個人に由来する資料（以下、研究者資料と呼ぶ）である。このような資料は各地の文書館・図書館・博物館や研究所内の「史料室」「記念室」など、さまざまな場所で保管されているが、特に小規模な組織の場合、資料目録が整備あるいは公開されていないことが少なくない。また、それぞれの機関が資料目録やデータベースを作成していたとしても、独自のフォーマットに基づいている場合には、横断検索システムを構築することも難しい。研究者資料の所在と概要の情報を集約できるようなことが、資料の活用に向けた第一歩と考えられる。

本研究の目的は、個々の資料（アイテム）でなく資料群（フォンド）に照準を合わせ、アーカイブズの国際標準となっている目録規則に即して、研究者資料を概括的に記述する標準的フォーマットを構築することである。以下ではこのような資料群の全体について記述するものを「概要目録」と呼ぶ。

1.2 方法と手順

研究者資料の概要目録の標準フォーマットを構築するにあたり、本研究では概ね以下のような進め方を採用した。

最初に、準拠すべきアーカイブズの国際標準を選択した。アーカイブズの分野では資料を記述するための国際的な枠組みが何種類か存在しており、

それぞれに特徴がある。今回の試みでは、国際公文書館会議（ICA）の諸標準を用いることにし、資料群そのものについてはISAD（G）を、資料作成者の情報はISAAR（CPF）を、資料保存機関の情報はISDIAHをそれぞれ基礎とした。

次に、日本国内の研究者資料に対して実際に適用でき、かつ、運用がなるべく容易になるように、国際標準で定められている項目のカスタマイズをおこなった。このカスタマイズは、日本国内で実際に保管されている資料群の実例に照らしながら進めた。その際、研究者資料の中でも物理学者の資料はまとめて保管されている例が比較的多く、現状をよく把握できていることから、物理学者資料を中心的な対象として検討を進めた。

最後に、物理学に限らず自然科学系のアーカイブズに実際に関わっている方々を招いて研究会を開き、作成したフォーマットの案と記述の実例について検討した。この結果、今回構築したフォーマットが物理学に限らずほかの分野の研究者資料に対してもおそらく有効であるとの見通しが得られた。

1.3 結果

本研究では最終的に、7つの機関が所蔵する計25件の資料群をサンプルとして選び、各機関の協力を得て、それぞれの概要目録を実際に作成した。その際、将来的なデータベース・システムの構築を念頭に置いて、「資料群」「所蔵機関」「作成者」の三つのデータベースをそれぞれ別にしておき、相互に関連付ける形とした。表1に、25件の資料群のタイトルと所蔵機関、および作成者を記す。これらは各機関が所蔵している研究者資料のすべてではなく、また、代表的な資料の例であるとも限らない。むしろ、含まれる資料の性質を異にするものや、作成者が同一だが複数に分かれているものなど、やや特殊に思えるものを意図的に選択している。これは標準フォーマットを構築するにあたり、その汎用性を検証することを一つの目的

としていたためである。

具体的な概要目録のフォーマットについて、和文での記述の実例とともに表2に示す（紙幅の制約上、資料群についてのみ提示し、所蔵機関と作成者については割愛する）。このフォーマットは23の項目から構成されており、一部は管理用の非公開項目である。ここに示した事例は、文書館が通常扱う文書類だけでなく装置部品という博物館的なモノ資料も含んでおり、今回構築したフォーマットが所蔵機関の種別を超えて適用できることを示してもいる。

1.4 課題と展望

本研究で構築したフォーマットは、実際に多くの機関で採用されなければその真価を発揮できない。したがって今後は、このフォーマットを普及させていくことが大きな課題となる。同時に、国内だけでなく海外との情報共有も念頭に置きつつ、データベース・システムとしてどのように実装するかを検討していく必要がある。これらを通じ、研究者資料の概要目録を集めたデータベースを立ち上げることが将来的な目標となる。

2. 発表（研究成果の発表）

有賀暢迪・森本祥子・高岩義信「研究者資料の活用をめざして：概要目録の標準フォーマット構築の試み」『科学』94巻7号、585-588頁（2024年）。

表1. 概要目録を作成した資料群の一覧

所蔵機関・部署名	資料群タイトル	作成者名
日本物理学会事務局	土井不曇資料	土井不曇
日本物理学会事務局	水野善右衛門資料	水野善右衛門
日本物理学会事務局	霜田光一資料	霜田光一
日本物理学会事務局	高木通泰資料	高木通泰
日本物理学会事務局	小谷正雄資料	小谷正雄
国立科学博物館理工学研究部	東京大学宮本梧楼研究室電子シンクロトロン関係資料	東京大学理学部宮本梧楼研究室
東京大学文書館	理学系研究科・理学部 教授会	東京大学理学部・理学系研究科
東京大学文書館	宇宙線研究所教授会	東京大学宇宙線研究所
東京大学文書館	宇宙線研究所部主任会	東京大学宇宙線研究所
東京大学文書館	宇宙線研究所 共同利用運営委員会・運営委員会	東京大学宇宙線研究所
東京大学文書館	大規模フロンティア促進事業概算要求	東京大学財務課
東京大学文書館	昭和6年航空研究所行幸記念映画	東京大学
高エネルギー加速器研究機構 史料室	山口嘉夫氏所蔵素粒子研関連資料	山口嘉夫
高エネルギー加速器研究機構 史料室	山口嘉夫氏所蔵 ICFA 資料	山口嘉夫、山田作衛
高エネルギー加速器研究機構 史料室	山口嘉夫氏所蔵 IUPAP 資料	山口嘉夫
高エネルギー加速器研究機構 史料室	山口嘉夫氏 CERN/SPC 関連資料	山口嘉夫
高エネルギー加速器研究機構 史料室	山口嘉夫氏所蔵の研究者に関する資料	山口嘉夫
高エネルギー加速器研究機構 史料室	山口嘉夫氏資料	山口嘉夫
筑波大学アーカイブズ	原子核理論研究室寄贈宮島龍興関係文書	宮島龍興
東北大学史料館	林威文書	林威
東北大学史料館	本多光太郎文書	本多光太郎
東北大学史料館	本多光太郎・日下部四郎太書簡（田中館愛橘文書）	田中館愛橘
東北大学史料館	ポーア博士来仙記録映像	中村左衛門太郎
自然科学研究機構核融合科学研究所核融合アーカイブ室	伏見康治氏寄贈資料	伏見康治
自然科学研究機構核融合科学研究所核融合アーカイブ室	伏見譲氏寄贈資料（伏見康治氏関係）	伏見康治

表2. 概要目録フォーマットの実例

項目名	記述例
レファレンスコード	JP-R0002-****
タイトル	東京大学宮本梧楼研究室電子シンクロトロン関係資料
タイトルヨミ	トウキョウダイガクミヤモトゴロウケンキュウシツデンシシンクロトロンカンケイシリョウ
内容摘記	東京大学理学部の宮本梧楼の研究室で製作された電子シンクロトロンの装置部品と書類。
分量	52点
内容	東京大学理学部の宮本梧楼（1911-2012）の研究室で1950年代に製作された加速器の一種、電子シンクロトロンの装置部品と書類。装置部品としては電磁石や真空容器（ビームパイプ）などがある。書類には、I：図面、説明書、試験成績書、II：装置の調整や測定記録等、III：物理関係の学術誌が含まれる。関連資料として、博物館での展示用に製作された模型がある。
編成	小分類：「装置部品」「書類」「その他」
使用言語	日本語、英語
年代域（開始）	1954年
年代域（終了）	1965年
作成者名	東京大学理学部宮本梧楼研究室
来歴	1972年に東京大学から国立科学博物館に移管。
検索ツール	アイテムリストを含む資料解説が出版されている。国立科学博物館の標本・資料統合データベース（理工学資料）で検索可能。
URL	https://db.kahaku.go.jp/webmuseum/search?cls=col_e1_01
資料の閲覧条件	要問合せ
著作権・複写に伴う条件	
出版情報	有賀暢迪 [ほか] 「東京大学宮本研究室電子シンクロトロン関係資料」『国立科学博物館研究報告 E 類：理工学』43(2020): 31-40.
関連する他の資料	
備考	
管理情報	【非公開】
アーキビストの注記	【非公開】
登録日	【非公開】
最終改訂日	2024/3/31